

西脇市消費生活センター

☎22-3111(防災安全課内)

No.166

悪質な訪問購入(押し買い)にご注意

■事例

「不用品を買い取る」「いらぬ服や靴はないか」と電話で勧誘し、消費者宅を訪問。当初売ろうとしていたものではなく、宝石や貴金属などを強引に買い取られた。

■「悪質な訪問購入」に遭わないために

必要がなければ電話勧誘の時点できっぱり断りましょう。なお、事前に連絡のない訪問で、物品の買い取りを勧誘することは禁止されています。

【買い取りをしてもらう場合】

- ①電話を受けた際、業者名と連絡先をしっかりと聞いておきましょう。
 - ②訪問時は家族や周囲の人に同席してもらいましょう。
 - ③事前に買い取りの承諾をした物品以外は売るのをやめましょう。当初の話と別の物品の売却を求めることは禁止されています。
 - ④売却を決めた場合も業者に紛失、売却される危険性を避けるため、契約後8日間(クーリング・オフ期間中)は物品を手元に置いておきましょう。
- ◎貴金属はむやみに見せない、触らせないようにしましょう。

あぐりコラム 4

西脇市では黒田庄和牛や山田錦、イチゴなど全国に誇れる地域食材が生産されており、さまざまな農業振興施策を推進しています。このコラムでは、本市の農業に関する旬な情報をお伝えします。

■問合せ 農林振興課(市役所内線322)



今後スマート農業の導入が期待されるイチゴ栽培

スマート農業がもたらす未来

近年、日本全体の人口減少によって農業従事者の人手不足が深刻となり、農家の負担は大きくなっています。そこで、新しい農業の形として「スマート農業」に注目が集まっています。

スマート農業とは、ロボット技術やIoT(モノのインターネット)などの先端技術を農作業に活用することで、作業の省力化や生産物の高品質化などを可能にする新たな技術として、さまざまな取り組みが進められています。

例えば、トラクターなどの農機の運転や、農場の温度の管理など、あらゆる作業を自動化させることで生産管理を最小限の労力で行うことが可能になります。また、「気象条件に対し臨機応変に対応する」などの継承が難しいとされるノウハウや技術も、熟練農家のデータを分析し自動化させることで、新たな農業の担い手確保につながるのではと考えられています。

無人のトラクターが農場を走り、ロボットが収穫を行うといった時代がそこまできているのかもしれない。



▲西脇小学校での授業の様子

好きです!! にしわき わたしのふるさと

心紡いで 彩り豊かな人財の育成

～誰もがふるさとに誇りと愛着を持ち、輝いて生きる 共生社会の実現に向けて～

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

「市長ふるさとを語る」特別授業を実施中

西脇市では平成28年度から「市長ふるさとを語る」特別授業を実施しています。小学6年生と中学2年生を対象に、11月までに市内全ての小・中学校で行います。「おしゃれ」「おもしろい」「おもいroyal」の3O(スリーオー)をキーワードに、片山市長が西脇市の魅力を伝える授業です。

どうして市長が先生になるの

子どもたちが西脇市に生まれ育ったことに誇りを持ちながら生活し、将来を見据えて学ぶことや働くことを考える「キャリア教育」を目的として、市長が講師となって授業を行います。授業では「このまちに誇りと自信をもつていきいきと暮らせるまちにしたい」という片山市長の思いを具体化した「おしゃれ」でおもしろい「西脇市を紹介します」。

3O(スリーオー)って何

▼おしゃれ 西脇市と市の地場産業「播州織」のブランド力強化を目指す「西脇ファッション都市構想」を紹介。県外からの移住者を含むデザイナー研修生20名が活躍する様子や、海外トップブランドの生地に播州織が採用されていることを紹介し、西脇市が

「おしゃれ」であることを伝えます。

▼おいしい 西脇ローストビーフやイチゴ、給食に出る黒田庄和牛など、西脇市の「おいしい」ものを紹介します。

▼おもいroyal 市内の観光スポットや催しなど、西脇市には「おもいroyal」ものがたくさんあることを紹介します。

市長が伝えたいこと

市長は子どもたちに向けて、自身の生き方やこれから目指す西脇市像を伝えます。特に中学2年生に対しては、トライやる・ウィークなどを通じて地域の皆さんから学び、自分でできることを探してほしいと呼び掛けました。この授業が子どもたち一人一人にとって、自分の将来について考えるきっかけとなることを期待します。

▼問合せ 学校教育課(市役所内線527)

心のスケッチ

124

人権教育課コラム

「また来て働きたい」異国の地・西脇

どこの国の言葉か私には分かりませんが、朝夕に大きな弾んだ声で話されている外国籍の人に最近よく出会います。西脇市では外国籍の人は毎年増えており、現在600人を超えています。そして、その約半数が技能実習生などの短期就労者です。

私は働き場所を求めて来日している外国人を見掛けると、以前私がネパールに滞在したときに知り合ったNさんのことを思い出します。

彼はさまざまな国で働いてきたそうです。「もつと長く働きたい」と思う国もあれば、「もう行きたくない」と思う国もあると話してくれました。その国では給料などの待遇も十分ではなく、仕送りが思うようにできなかったと話していました。そして、ネパール人は文化水準が低い人に見られたり、自分の信じる宗教を尊重されず異教徒扱いを受けたりしたそうです。何より憤りを感じたのは、自国民優先で外国人に対する差別的な対応があったようです。この思いを持ったのは彼だけかもしれ

ません。しかし、私は彼の言葉を聞いて「はっ」としました。私にも外国の人に対してそのような気持ちが無いだろうか。

「入管法」の改正などによって、外国人労働者が今後増える予想されます。異文化の尊敬と人としての尊厳を認める対等な関係、多文化共生こそが「日本に来てよかった」と感じるものになるのではないのでしょうか。

市内のある企業では「待遇などの平等」を合言葉に、異文化への配慮や、外国人就労者が地域の田植え体験などに参加して尊重し合う関係を持つるようになっています。言葉や習慣などさまざまな「壁」もありますが、「また来て働きたい」という言葉を残して帰国していると聞きました。「私の国では、人々の間でこれほど思いやりを感じることはありません」と最近市内に住まれた外国人から感想を聞きました。誰にでも思いやりでもてなす西脇の良さを感じていただき、うれしくなりました。(人権教育課)

市長からの手紙

西脇を元気に!!

66



西脇市長 片山 薫

「日本一健康なまち」を目指して

最近、出勤や出張の際にできるだけ歩くことを心掛けています。きっかけは「歩いて暮らせるまちづくり」でした。「世界一受けたい授業」で

おなじみの筑波大学大学院の久野謙也教授に何度も西脇市へ来ていただき、主宰されている「スマート・ウェルネス・シティ」にも加入しました。超高齢化が進む中、個人が健康かつ生きがいを持ち、安全安心に豊かな生活を営むことができること」が、真の健康であり、これから目指す



2年後の供用開始を目指す新庁舎・市民交流施設

べきまちの姿ではないかと思っただけです。西脇市はコンパクトで利便性の高いまちを目指して策定した計画(立地適正化計画)が「第1回コンパクトなまちづくり大賞」を受賞しました。計画は医療、福祉、商業施設などの都市機能を集約するもので、若者が集う西脇ファッショ都市構想や市民主体で盛り上がりを見せた「播博」などと連携したまちづくりが大きく評価されました。この計画と健康づくりは、とても関係深い内容だということに改めて感じています。令和3年完成予定の新庁舎周辺では、健康に関心の薄い人でも自然と健康になれるようなハード整備や仕組みづくりを考えています。取り組みを通して「日本一健康なまち」を目指したいと思っています。みんなが誇れる「元気なまち西脇市」をともに創ってまいります。

